

河岸端 (かしばた)

所在地 宮城県加美郡加美町字四日市場

指定 加美町指定史跡 昭和 53 年 3 月 31 日

概要

江戸時代の輸送機関として利用された鳴瀬川の船使の終点といわれます。倉が建ち並び米・薪などの輸送でにぎわっていました。

四日市場の御蔵は積雲寺より志田江を隔てて三本木街道の南、鳴瀬川左岸堤防の内側に沿う北元宿囲いがあり、今でも御蔵場跡と呼ばれています。その南方十数間の鳴瀬川岸に「河岸端」と呼ぶところが昔の船着き場です。高瀬舟が野蒜から塩や稲井石などを積んで鳴瀬川を遡行して、ここに停泊し、帆柱を倒して棟木とし、萱で編んだ大きな帆を屋根にします。舟の中で寝起きをし、炊事もして幾日も滞在して、帰りは薪炭や米麦の穀類を積んで降りたものです。

藩政時代ここには 4 棟（御本石御蔵・御前金御蔵・御吹屋・御両屋一棟）の建物があったて、大きさは間目 15 間・奥行 4 間半、坪数はどれも同じくらいであったといえます。その中の 1 棟は明治 25 年頃に鳴瀬小学校の一部として移築され、教室に当てられたといえます。

この御蔵が最初にできた年代は文献がなくてはっきりしたことは分かりませんが、およそ明暦から天和に架けての 17 世紀後半頃で、四代藩主綱村の代の時ではないかと推定されます。

